

## 当院における緊急連絡網運用に関する検討 ～緊急連絡網と一斉メール併用訓練 を通して(第3報)～

市立八幡浜総合病院 看護部 1) 救急部 2)

○ 宮谷 理恵 1)

川口 久美 1)

越智 元郎 2)

### 当院における緊急連絡網運用に関する検討

#### ～緊急連絡網と一斉メール併用訓練を通して～(第3報)

An analysis on hospital exercise for emergency call trees combined with e-mail network, the third report

市立八幡浜総合病院麻酔科・救急部 ○宮谷理恵、川口久美、越智元郎

【背景と目的】 当院は、職員用災害時一斉メールと電話を併用した緊急連絡網を運用している。2014年度にはメール登録率が初めて80%を超えたことから、年1回実施している連絡網運用訓練を通じて、その効果と今後の課題を抽出した。

【方法】 2014年6月14日に実施(日時は予告せず)。対象は全常勤職員213人。訓練の想定:火災により患者避難が必要という連絡で、院長が全員召集の方針を決定し連絡網を始動。各所属の筆頭者は、所属の全経路から連絡終了の電話が入った時点で訓練を終了。訓練後、連絡先・時刻などに関する調査票を回収し集計。

【結果】 調査票回答率は91.1%。訓練時点でのメール登録率83.5%。訓練開始1時間以内の連絡率は83.0%(前年81.5%)。15分以内では電話よりメール連絡が上回った。なお、今回事務局が各所属長以外の連絡先を把握していないことが判明。

【考察および結語】 1時間以内での連絡率は、前年に比べ微増にとどまった。15分後では電話よりメール連絡が上回り、迅速性については一斉メールの有効性を示唆。また事務局は連絡担当経路の職員の連絡先すべての把握が必要。一方、各部署で初任者への指導も必要。今後職員全員のメール登録を目指したい。

## はじめに

- \* 当院は、災害拠点病院であり、地域の中核病院としての役割を担う。
- \* 当院の災害医療計画では、災害時の非常参集規定と緊急連絡網を定めている。
- \* 2010年には、参集免除についての規定ができ、2011年より緊急連絡の運用訓練を行っている。
- \* 2012年度から災害時一斉メールの併用を開始した。

## 第1報・2報まとめ

### \* 第1報 (2013年本学会)

- \* 電話による連絡網と一斉メールを併用⇒連絡網末端までの連絡時間を短縮できた。
- \* メールを受信した人が一斉に電話をかける⇒無駄な話し中の時間ができた。

### \* 第2報 (2014年本学会)

- \* 電話による緊急連絡網と一斉メールを別経路で運用
- \* ⇒「無駄な話し中の時間」が改善。
- \* 15分以内の連絡率：  
電話 < メール  
迅速性については一斉メールの有効性を示唆した。

電話連絡網とメール一斉配信を別経路で運用

**対策**

メール登録率を高める。  
職員の意識の向上と訓練の継続

2011年～緊急連絡網訓練						
		第1報で報告	第2報で報告			
	2011年 7月17日(日) 9時00分	2012年 7月15日(日) 12時45分	2013年 6月5日(水) 19時30分	2014年		
緊急連絡網 方法	実施日予告 電話連絡網 運用開始。	実施日予告 一斉メール受 診後、緊急連 絡網(電話)で 連絡	実施月のみ 予告 緊急連絡網 (電話)と一斉 メールを別々 に運用	<b>今 回 報 告</b>		
メール登録率 (%)		74.0%	77.4%			?
1時間以内の 連絡率(%) ※勤務中職員 含む連絡率	最終的な 「連絡率」 のみ集計	86.0% 15分以内 71.9%	81.5% 15分以内 52.1%			?
アンケート 回収率(%)	%	100%	98.1%			?

## 緊急連絡網運用の規定 ①

★**地震以外の災害**に関して、職員の招集(招集待機を含む)が必要な場合に緊急連絡網を運用

- \* **勤務時間内** ⇒ 連絡網は運用しない(院内放送等で連絡)
- ・非番の看護職員には、看護部から非常招集等の連絡をする。
  - ・看護職員以外の職員には、事務局が出張・休暇などの職員に、把握できる範囲で非常招集等の連絡をする。

## 緊急連絡網運用の規定 ②

- 1) 連絡網に沿って連絡を進めるが、連絡が見つからない場合、その人を飛ばし、次の人に連絡する。最後の人は連絡網筆頭者に連絡をする。
- 2) 職員は同じ連絡網上にある他の職員の電話番号を把握しておくこととする。
- 3) 連絡網には携帯電話、固定電話など、複数の電話番号を掲載することを推奨する。
- 4) 一斉メール受信に関わらず、連絡網下方への連絡は、電話連絡受信後。  
(2012年度から災害時一斉メールを併用)

## 目的

**\*2014年度、メール登録率が初めて80%を超えたことの効果**を、昨年同様の方法で緊急連絡網を運用し、連絡率の変化を評価した。

## 方法 ①

訓練日：2014年6月14日(土) 11時30分

\*6月中に実施とのみ予告し、訓練を実施した。

(訓練日時はくじ引きで決定し、事務局長のみ認知)

\*事前に緊急連絡網の確認とメール配信サービスの登録を勧めた。

調査対象：非常勤・委託を除く全職員213人

訓練後の評価：全参加者に通信の時間経過等を報告して貰い、問題点を抽出した。

## 方法② 訓練内容

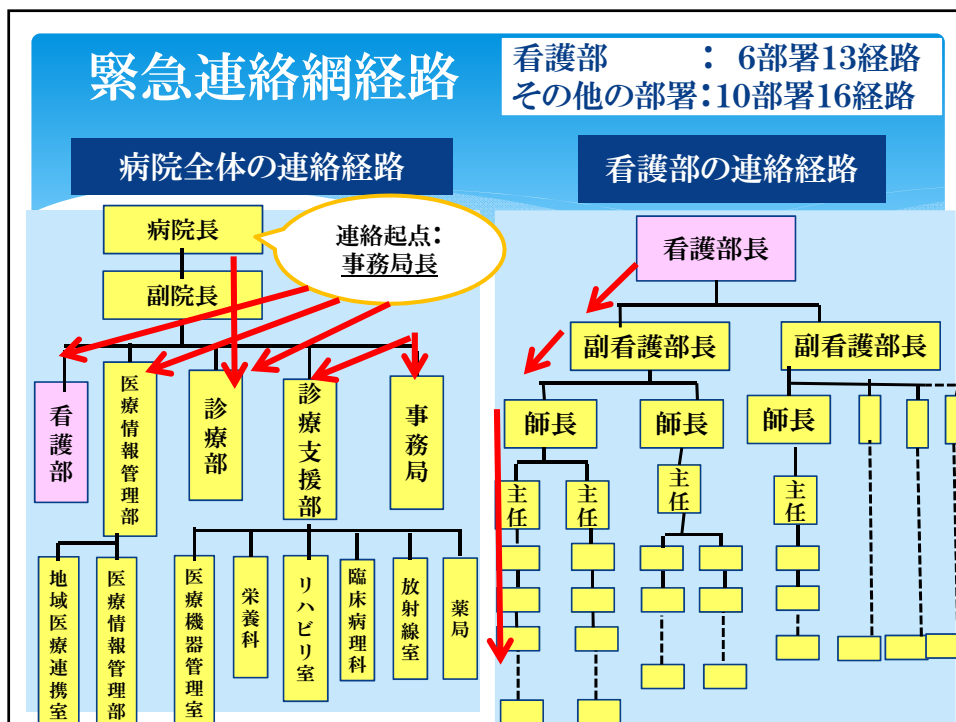
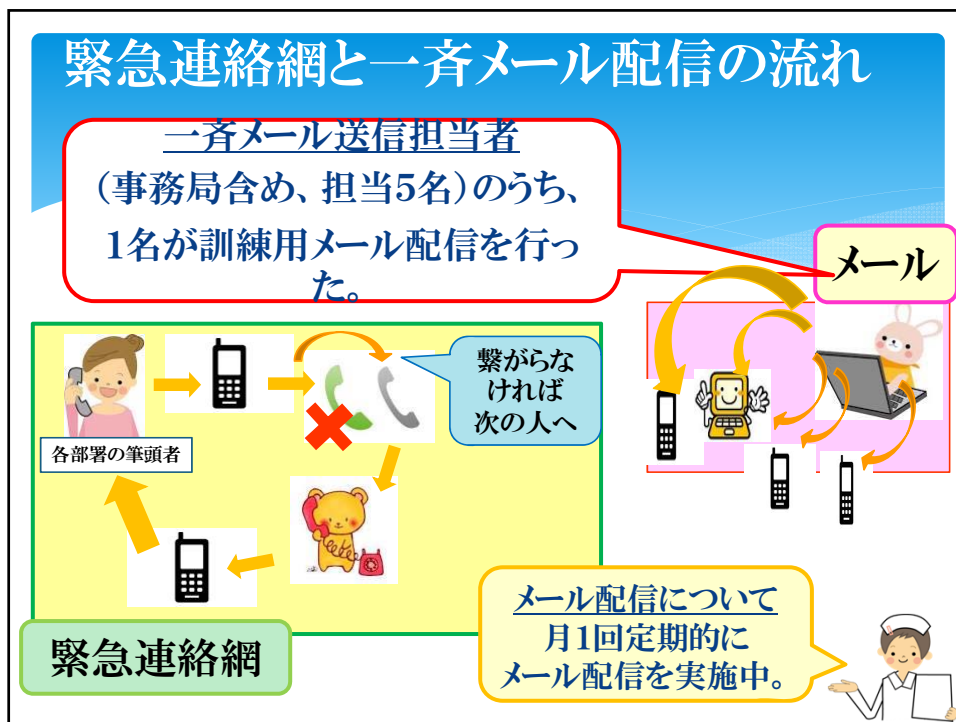
1. 災害状況設定  
火災により  
患者避難が必要。

2. 事務局長→院長に連絡  
緊急連絡網による  
全員招集の方針決定。

3. 事務局長を通じ、  
緊急連絡網始動  
(緊急連絡網+一斉メール)

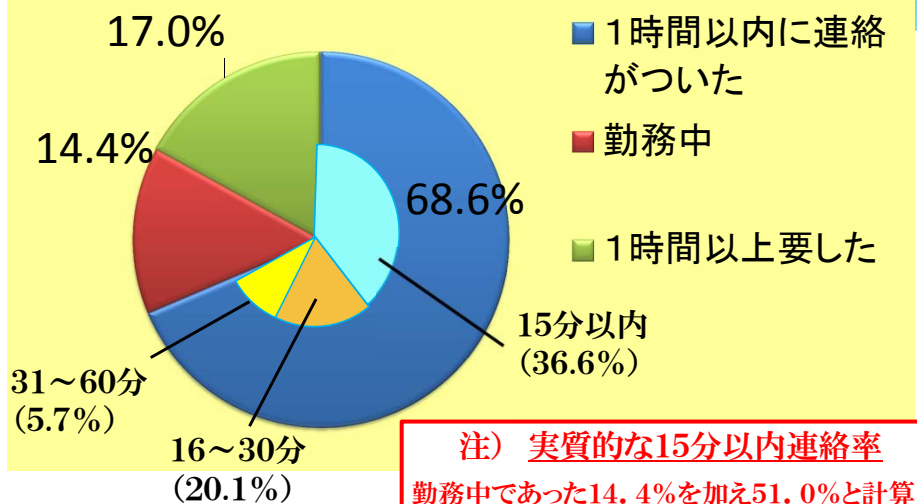
### ※ 緊急連絡網運用の注意事項

- 1) 連絡網の次の人に連絡がつかない場合、次の人次の人へと連絡。
- 2) 先にメールでの緊急連絡に気付いた場合でも、連絡を待ち、電話で次の人に連絡。



## 結果① 報告書回収率:91.1%(194人)

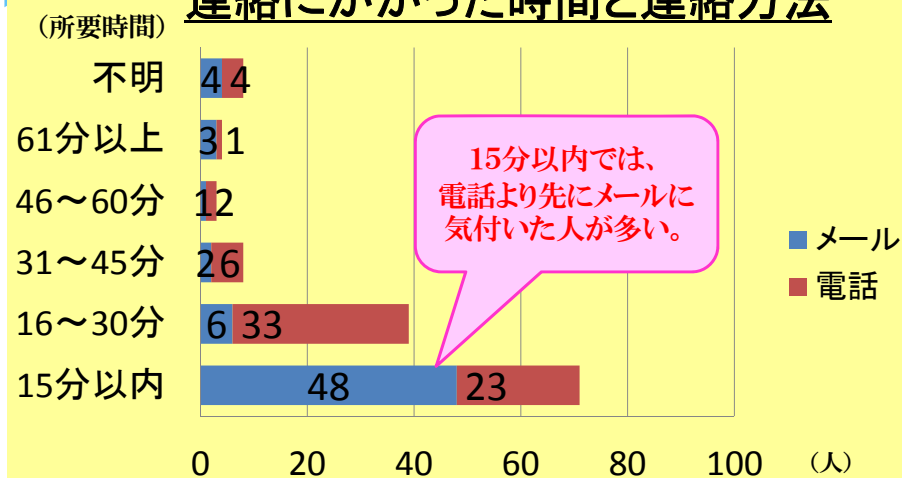
### 1時間以内に連絡がついたか？

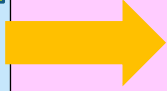


## 結果②

訓練時点における緊急連絡メール登録者  
(訓練対象外の非常勤職員含む)は、  
**177人**であった。

### 連絡にかかった時間と連絡方法



2011年～緊急連絡網訓練				
		第1報で報告	第2報で報告	今回報告
	2011年 7月17日(日) 9時00分	2012年 7月15日(日) 12時45分	2013年 6月5日(水) 19時30分	2014年 6月14日(土) 11時30分
緊急連絡網 方法	実施日予告 電話連絡網 運用開始。	実施日予告 一斉メール受 診後、緊急連 絡網(電話)で 連絡	実施月のみ 予告 緊急連絡網 (電話)と一斉 メールを別々 に運用	同 
メール登録率 (%)		74.0%	77.4%	83.5%
1時間以内の 連絡率(%) ※勤務中職員 含む連絡率	最終的な 「連絡率」 のみ集計	86.0% 15分以内 71.9%	81.5% 15分以内 52.1%	83.0% 15分以内 51.0%
アンケート 回収率(%)	%	100%	98.1%	91.1%

## 考察 1

- \* 電話と一斉メールを別経路で運用(昨年同様)することで、**83.0%の職員が連絡開始1時間以内に連絡を受けとった。**
- \* 2012年の連絡率より劣った理由  
⇒同年は訓練日を周知していたため。
- \* 2014年にメール登録率が向上したが、連絡率が改善しなかった理由  
⇒今回休日での訓練になったため。
- \* 15分以内では、電話連絡よりメール連絡が上回り、迅速性については一斉メールが有効(昨年同)。ただし、メールのみで15分以内に連絡がとれた者は全職員中の24.7%にとどまり、メールだけで連絡を取ることに限界もある。



## 考察 2

- \* 今回、連絡初期の段階で、各部署の所属長や代行者への連絡が不通となる場合があり、その先の職員への連絡に時間を要した。



病院として、より末端の職員の連絡先も把握しておく必要がある。

## 考察 3 : 今後の展望

### 第3報までの結果

- \* 1時間以内の「連絡率」を調査・比較してきた。
- \* 病院火災など避難を要しかつ人手が必要な場合に、連絡が1時間かかる(+出勤に要する時間が必要)⇒現実的でないという声あり。



大勢に迅速かつ正確に伝達するためには、メール登録率を上げる他ない。

ただし補完的な手段として電話連絡網も捨てきれない。

## 結語

- \* 4回目の緊急連絡網運用訓練を行った。  
(訓練日時 非公開)
- \* 今後は、より短時間の連絡完了を目指したい。
- \* 引き続き、職員のメール登録率向上を目指したい(電話による連絡網も併用)。

演題発表に関連し、開示すべき利益相反 関係にある企業などはありません。